

感染症に気をつけよう!

2019年【2月号】

横浜市内の感染症流行状況

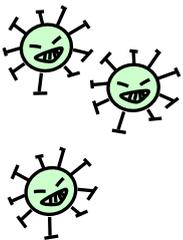
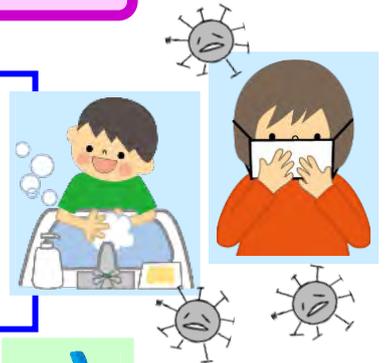


感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
<u>インフルエンザ</u> **	 警報	 増加	例年と比べて大幅に増加していた昨シーズンの同時期の報告数を上回っています。【'19.1号】
<u>風しん</u> **	 多発	 横ばい	30~40代の男性を中心に、報告数が多い状態が続いています。【'18.10号】【 風しん対策事業 】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



- 予防の基本**は、正しい手洗い**の習慣です。
- もし咳や熱などの症状が出てしまったら、マスクを着けるなど、咳エチケット**を守り早目に受診しましょう。



- 小学校を中心に学級閉鎖が急増し、保育園、病院や高齢者施設等での集団発生も増えています。
- 小児と高齢者の入院患者が増加し、重症肺炎や脳炎が疑われる例も報告されています。



- こんな症状は重症化のサインです。すぐに受診してください。

- ✓ 呼びかけに答えない!
- ✓ 呼吸が早く息苦しい!
- ✓ 胸の痛みが続く!
- ✓ 症状が長引き悪化!



参考ホームページ *：国立感染症研究所 **：厚生労働省

